



Fashion Channel News

- April, 2025 -

- #1859 2025 Spring/Summer PARIS COLLECTION REPORT 2
[収録ブランド] YOHJI YAMAMOTO / DIOR / CHLOÉ / CHRISTIAN WIJNANTS /
COURRÈGES / DRIES VAN NOTEN
- #1860 2025 Spring/Summer PARIS COLLECTION REPORT 3
[収録ブランド] ISABEL MARANT / ISSEY MIYAKE / LACOSTE /
LEONARD / LOEWE / ROGER VIVIER / MAISON YOSHIKI PARIS
- #1861 2025 Spring/Summer PARIS COLLECTION REPORT 4
[収録ブランド] McQUEEN / RABANNE / RICK OWENS /
VICTORIA BECKHAM / MAME KUROGOUCHI / SHIRYU TAKAHASHI
- #1862 2025 Spring/Summer TOKYO COLLECTION REPORT 1
[収録ブランド] ANGELICPRETTY / anrealage homme / BALMUNG /
Chika Kisada / CINOH / el conductorH / FDMTL



7-20-6 Roppongi Minato-ku Tokyo 106-0032
TEL. 03-3746-3323 FAX. 03-3408-5549
URL. <https://fashionnews.co.jp> E-MAIL. info@fashionnews.co.jp

Collection

#1859

#1860

#1861

軽さと透け感を携えたロマンティックルックが台頭 2025 春夏 パリコレクション

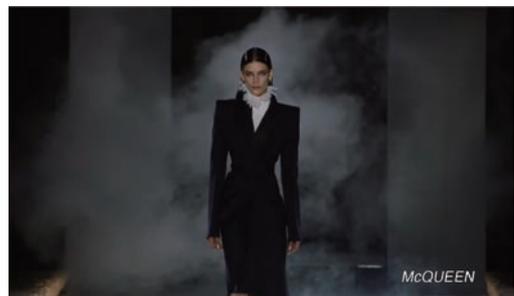
2025 春夏 パリコレクションが2025年9月23日～10月1日、ミラノコレクションに続いて開催された。9日間の会期中、106ブランドがショーやプレゼンテーションで新作を発表した。今季は「VALENTINO (ヴァレンティノ)」がAlessandro Michele (アレックスサンドロ・ミケーレ) をクリエイティブ・ディレクターに迎えて新たなスタートを切ったほか、新クリエイティブディレクターによる2シーズン目のコレクションをおこなった「McQUEEN (マックイーン)」 「CHLOÉ (クロエ)」 「LACOSTE (ラコステ)」 に注目が集まった。



日本勢は11ブランドにのぼり、パリで大きな存在感を發揮。「ISSEY MIYAKE (イッセイ ミヤケ)」 「YOHJI YAKAMOTO (ヨウジヤマモト)」 「ANREALAGE (アンリアルレイジ)」ら常連ブランドに加え、「CFCL (シーエフシーエル)」 「マメ ME KUROGOUCHI (マメ・クロゴウチ)」 「MAISON YOSHIKI PARIS (メゾン・ヨシキ・パリ)」ら若手有力ブランドが参加、勢力を拡大している。



注目トレンドは、軽さを備えたシアー素材、スポーツのユニフォームから着想を得たスタイル、70年代のボヘミアンルック、そしてロマンティックなフラワープリント。遊び心のあるトロンプユのデザインも目立つ。クラシカルなムードを演出しながら、羽のように軽く透ける素材で仕立てられているのがポイントだ。フラワープリントはアンティーク調のパターンからノスタルジックなムードを漂わせる。アメフトや水泳といったスポーツのディテールが取り入れられているのも特徴だ。



Seán McGirr (ショーン・マクギアー) が手がける「McQUEEN (マックイーン)」は、アイルランドの寓話に登場する妖精“バンシー”から着想を得て、ダークでロマンティックなコレクションを展開した。伝統的な英国調テーラードにひねりを効かせたデザインが光る。ショルダークラインはつまんで引き上げられ、くびれたウエストからギャザーが広がる。ドレスにはシルクシフォンやオーガンザといった透ける素材を用い、レースの上から刺繍を施すといったクチュールテクニクが秀逸だ。

クリエイティブ・ディレクターにChemena Kamali (シェミナ・カマリ)を迎えた「CHLOÉ (クロエ)」は、1970年代のカルーラガーフェルドのアーカイブにオマージュを捧げるコレクションを提案した。キャミソールやドロワーズ、ネグリジェといったランジェリーアイテムには、チュールやレースをたっぷりあしらひ、肌が透けて見せることで、センシャルに仕上げている。ギャザーやプリーツで膨らみを持たせたドレスは、日焼けしたようなレトロな佇まい。波に打ち上げられた丸みを帯びた貝殻や石など、夏らしいアクセサリをコーディネートして、開放的なムードを演出している。

Collection

#1862

日本ならではの技術と発想力でスタイル構築 2025 春夏 東京コレクション

国内最大級のファッションの祭典「楽天ファッション・ウィーク東京 (RFWT) 2025 春夏」が2024年9月2日～7日の6日間にわたって開催された。メインイベントである東京コレクションには、国内外合わせて33ブランドが参加。そのうち、ランウェイショー形式での発表は26ブランド、デジタル発表は7ブランド。ブランド数は前年同期と比べて大幅に減ったものの、日本ファッション・ウィーク推進機構 (JFW) によるブランド支援プログラム「JFW NEXT BRAND AWARD 2025」受賞ブランドの「TELMA (テルマ)」や、「Chika Kisada (チカキサダ)」、「FETICO (フェティコ)」、「PILLINGS (ピリングス)」、「YOSHIOKUBO (ヨシオクボ)」ら過去にアワードを受賞した実力派ブランドが勢揃いし、質の高いコレクションを展開した。

初参加は「TENBO (テンボ)」のデザイナー鶴田能史と元大関の小錦八十吉がタッグを組んだプラスサイズブランド「52TENBO+ (コニテンプラ)」や、イタリアの「HOUSE OF MUAMUA (ハウス オブ ムアムア)」、サステ (ナブルブランド「00u (オー・ゼロ・ユー)」など6ブランドを数えた。

またRFWT会期中は、1990年代～2000年代初頭の“あんどき (あんどき)”のストリートスタイルをテーマにしたフリーマーケット「あんどき」や、AI技術とファッションを融合させた「TOKYO AI Fashion Week 2025S/S」コンテストなど、楽しいイベントが都内各地で開催され、ファッションの祭典を盛り上げた。

注目ブランドはブランド初のランウェイショーを開催した

「TELMA」。“鶴の恩返し”をテーマに、シースルー素材を多用したレイヤードルックを披露した。オリジナルテキスタイルの開発に力を入れてきたデザイナーの中島輝道は、麻のような風合いを生み出すコンニャク樹脂を使用したコートや、和紙100%で仕立てられた軽やかなテラードジャケットを提案。日本の伝統技術を生かした服作りで大きな注目を浴びた。中島デザイナーはベルギーのアントワープ王立芸術アカデミーを卒業後、「DRIES VAN NOTEN (ドリス・ヴァン・ノッテン)」、「ISSEY MIYAKE (イッセイ・ミヤケ)」で経験を積んだ実力派だ。

「Chika Kisada (チカ・キサダ)」が着目したのは中毒や陶酔を表す言葉“intoxication”。ブランドコンセプトであるバレエとパンクの要素はそのままに、情熱的なロマンティックスタイルを提案した。レオタードやボディスーツ、ビスチェといったバレエを感じさせるスタイルには、チュールやレースといった透ける素材をアシントリーに重ね、花のアップリケを飾ることで、ボリューム感を演出する。本来内側にセットされるクリノリンは、見せる装飾として採用。キーカラーの鮮やかな赤を随所にあしらひ、インパクトのあるスタイルに仕上がっている。

